

令和元年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
							用地費	進捗率				
林道事業	4	浅谷越線	熊野市		<p>【全体事業概要】 延長: 15,080m 幅員: 4.0m 利用区域面積: 1,056ha</p> <p>【事業目的】 路網が未整備な熊野市北東部の森林における骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、運搬コストの低減などによる林業の生産性向上を目的としている。</p>	H6	3,041	78.5%	延長: 12,163m	<p>熊野市では、平成20年度を始期とする総合計画を樹立し、平成30年度には第2次総合計画を樹立し、木材流通の拡大を目標に掲げ、その実現のために行政が果たすべき役割として、林道、作業道の整備を上げている。</p> <p>熊野原木市場における素材の取扱量及び売上高は平成13年度をピークに減少し続けていたが、平成24年度より増加傾向にある。</p> <p>平成24年4月に広域合併した三重くまの森林組合が、地域林業の中核的担い手として、行政機関や関係業界などと一体となって、地域の森林整備と保全を進めている。</p>	<p>【費用対便益分析結果】 B / C = 77.0億円 / 44.7億円 = 1.72</p> <p>【コスト削減】 地形に沿った波形線形の採用や、路肩の縮減、コンクリート擁壁工に替えて補強土壁工を積極的に活用することにより、土工量の低減し、コスト削減を図る。</p> <p>【代替案の検討】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。</p>	一層のコスト削減を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図り、計画的な予算配備に努めながら早期完成を目指し、事業を継続する。
						R8						

令和元年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し				
						採択年 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容			
							工事費	進捗率							
							用地費	進捗率							
林道事業	3	経ヶ峰線	津市		【全体事業概要】 延長:14,000m 幅員:5.0m 利用区域面積:1,071ha	H6	2,438	61.0%	延長:7,431m	津市では、平成30年4月から津市総合計画・第二次基本計画がスタートし、間伐等の森林整備により、森林の適正な管理を推進するため、その基盤である林道・作業道の整備を進めることとしている。また、自然に親しむ環境づくりのため、経ヶ峰を通して森林保全に対する市民意識の醸成を促進することとしている。	【費用対便益分析結果】 B/C = 71.2億円 /58.7億円 = 1.21 【コスト削減】 地形に沿った波形線形の採用や、路肩の縮減、コンクリート擁壁工に替えて補強土壁工を積極的に活用することにより、土工量の低減し、コスト削減を図る。 【代替案】 当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があることから、当林道を開設する以外に代替案はない。	コスト削減と環境配慮に努めながら、早期完成を目指し、事業を継続する。			
					【事業目的】 路網の未整備な経ヶ峰周辺の森林における基幹となる林道として、林業生産活動を活性化させ、森林資源を有効活用するとともに、森林の適正管理を促進して森林の持つ公益的機能を維持増進し、また、錫杖湖周辺の観光資源から、経ヶ峰頂上へのアクセス道として、自然を生かした集客交流産業の活性化を図る基盤施設として、地域振興を図ることを目的としている。								}	2,438	61.0%
					R16										

令和元年度三重県公共事業再評価箇所一覧表

(単位:百万円)

事業区分	番号	事業名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果 コスト縮減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し		
							総事業費	進捗率	事業進捗内容					
													うち工事費	進捗率
													うち用地費	進捗率
海岸侵食対策事業	10	宇治山田港海岸 (海岸侵食対策事業)	伊勢市		<p>【全体事業概要】</p> <p>事業延長 3,518m</p> <p>事業概要 堤防改良工 3,518m 突堤工 6基 養浜工 14万m3</p> <p>事業費 6,665百万円</p> <p>【目的】 宇治山田港海岸は、伊勢湾西岸の南部に位置し、北西から南東方向に直線的に延びる延長約3.5kmの海岸です。海岸背後には人家が密集しており、夫婦岩参道(旅館街)の観光客も含め人口が集中する地域となっています。当地区の海岸堤防は、伊勢湾台風による被災を契機に昭和36年までに築造されましたが、築後50年以上が経過していることから施設本体の老朽化が進んでおり、また、近年は河川からの土砂の供給が減少していることなどから砂浜が侵食を受け汀線は大きく後退してきています。このようなことから、台風などの高波時には防護効果の低下により波が堤防を越える越波被害が発生するなど、背後の旅館街及び人家の安全が危惧される状況となっています。本事業では「海岸侵食の進行を防止し海浜の安定を図るとともに、波浪や高潮などによる浸水を未然に防ぎ、背後地の生命・財産を守る」ことを目的に、平成12年度から事業に着手し、令和12年度の完成を目指し事業を進めています。</p>	H12	3,331	50.0%	<p>【整備済み内容】</p> <p>事業概要 堤防改良工 1,298m 突堤工 5基 養浜工 11万m3</p>	<p>【社会的状況の変化】 伊勢市二見町の世帯数に大きな変化はありません。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C = 20.7</p> <p>【コスト縮減】 二見工区では、作業船の喫水を確保するための仮設浚渫範囲について、事前に深浅測量を実施し、浚渫量が少ない経済的な箇所を選定して、仮設費に係るコスト縮減を図っています。また、今一色・西・荘工区においても、堤体盛土に他工事の発生残土を利用するなど、コスト縮減を図っています。</p> <p>【代替案】 海岸保全施設については、線の防護方式又は面的防護方式による整備が考えられます。二見工区、今一色・西・荘工区の一部の名勝地に接する区間は、背後の社会環境(夫婦岩表参道、旅館街)等や自然環境を考慮し、既設堤防の高さを変えずに防御する、面的防護方式(堤防改良+突堤+養浜)としています。一方、今一色・西・荘工区では、堤防前面まで海苔養殖等の漁業活動が盛んなことから、海域の改変面積が小さく現況の環境を維持できる、線の防護方式(堤防高上げ)としています。以上から、当海岸において代替案は考えられず、現計画で進めることが妥当であると判断しています。</p>	<p>【今後の見通し】 計画の見直しによる事業費の増加や厳しい財政状況の中、予算執行計画を踏まえ、令和12年度の完成を目指し、引き続き事業を推進していきます。</p>		
											R12	-	-	

注:再評価理由

事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業

事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業

再評価実施後一定期間が経過している事業

社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業